

高品質のグリーンアスパラガスで、ナンバーワンの農家を目指したい！

〜ジエットファーム 長谷川 博紀さん（厚沢部町）



就農から5年目を迎えた長谷川博紀さん、朋巳さん夫妻と健人君、彩花ちゃん

茂木健一郎氏の言葉に押され、化学メーカーから農業の世界へ

「まずは、うちのアスパラを食べてみてください。ビニールハウスが並ぶ厚沢部町館町の圃場を「JET FARM（ジエットファーム）」と名付けた代表の長谷川博紀さん（33歳）が、2棟のハウスのグリーンアスパラガスの食べ比べをさせてくれた。

1棟目のハウスのグリーンアスパラガスは、繊維が気にならないほど柔らかく、みずみずしく、甘みが強い。次のハウスも同様の味わいた感じが安定していないので、自分としてはランクを上げていきます。アスパラの品質は土壌に左右されますから、土づくり、温度と水の管理が重要なんです。平成24年4月に新規就農を果たしたばかりの長谷川さんだが、品質へのこだわりは人一倍強い。

出身地の北斗市から函館工業高等学校に進んだ長谷川さんは、大阪に本社がある化学メーカーの茨城工場に就職。順調に技術者としてのキャリアを重ねていたが、日本経済新聞の記事が長谷川さんの方向性を変えたとのことだ。

「中国の人口が13億人を超えた記事を見て、食料問題に関心を持ったのが、農業に興味を持ったきっかけでした。そんな時、同じ新聞で『若者はとにかく行動すること。それによって、人生が開けていく』という脳科学者の茂木健一郎氏の記事を読んだ、その翌日には辞表を出してしまいました」と長谷川さん。一やるから



朋巳さんは彩花ちゃんを背負って、作業を手伝っている



厚沢部からグリーンアスパラガスの収穫に訪む長谷川さん

には、一番になりたい」という思いを胸に道内で農業の道を探り、縁あって、たどり着いたのが厚沢部町だった。



榎山農業改良普及センターの渡部正章主査（右）の訪問を受ける長谷川さん

22年の春から、町内の畑作農家の下で研修を受けた長谷川さんは知人の紹介で、函館出身の朋巳さん（33歳）と結婚。2年間の研修中に、グ

リーンアスパラガスの立茎栽培を行っている農家が、後継者を探しているという話が飛び込んできた。厚沢部町の特産の一つになっているグリーンアスパラガスは収益性も高く、就農後、すぐに収穫できる環境は長谷川さんにとって魅力的だった。130aの土地と施設などの購入資金は「農業担い手育成条例」に基づき町からの奨励金によって賄い、長谷川さんはアスパラ専門農家として独立した。

自家製堆肥で土壌改良。百貨店や個人の注文が急増

初収穫も順調にこなしていた長谷川さんだが、就農2年目に作物の品質が、思うような評価が得られなかったそう。

「百貨店のバイヤーが集まる商談会に出品したのですが、一本も売れなくて、技術の差を痛感しました」。農



切り落としした根元の部分は堆肥に混ぜて、有効活用している



「ジェットファーム」のグリーンアスパラガス

開期を利用して、堆肥や農業などの知識を徹底的に学んだ長谷川さんは、①強い農業は使わない、②化学肥料は使わない、③土壌微生物が活動しやすい環境をつくる、④ポイントルールを決めて、虫除けには木酢液のほかに、漢方生薬エキスを使い、灌水後に発生しやすい害虫を予防、人間が薬として服用できる生薬なので、作物にも安心して使用できます」と胸を張る。

また、堆肥は粉殻を混ぜた牛ふん堆肥に、グリーンアスパラガスの根元の端材などを加えて発酵・完熟させたものを使って、微生物が活動しやすい環境をつくるために、長谷川さんは土壌中における放線菌の役割に注目している。有機物の分解を促進する放線菌繁殖のため、キチン質を豊富に含むカニ殻に、炭を加えるなどの工夫を重ね、化学肥料を使わない土づくりを進めてきた。その努力は徐々に結果となって表れ、FacebookやLINEなどのSNSを通じて、百貨店やレストラン、個人からの注文が舞い込むようになってきた。

現在、ハウスは17棟に増え、長谷川さんは収穫が始まる4月中旬から9月中旬まで、休むことなく、作業を続けている。そんな長谷川さんを陰で支える朋巳さんは、長男の健人君（3歳）を保育所に送った後、昨年9月

に生まれた長女の彩花ちゃんを背負って、収穫したグリーンアスパラガスの根元を切る作業などを手伝っている。長谷川さんは「おかげさまで、うちのアスパラをおいしいと言ってくれて、注文して下さるお客さんが増えてきました。直販は高く買ってもらえて収益も上がりますし、うちのアスパラをブランドとして扱ってくれる百貨店もあるんですよ」と笑顔を見せる。

昨年はインターネット上で企画の支援者を募り、目標金額に到達すると、実行に移せるクラウドファンディングを利用した。その資金を活用して、あらかじめ苗を植えてあるプランターに水をあげるだけで簡単にグリーンアスパラガスが収穫できる「夢見るアスパラ」という栽培キットの販売に挑戦。さらに品質を高めるため、わざわざ水道を引き、水をナノバブル（超微細気泡）植物活性水に変える装置も導入するなど、次々に新しい取組を進める長谷川さんは、「自分が師匠と親づいてる人にも『今がチャンスだから、頑張らなさい』と言われました。技術的にはまだまだですが、さらに品質を追求していきたい」と話し、就農時に抱けた「農家で一番になる」という目標に向かって、まい進する毎日だ。

（フリーライター／梅村 敦子）